

2016年度 ハッセルト市学生代表団のホストファミリー事業報告

2016年7月に来日したハッセルト市学生代表団の皆さんの滞在中のお世話を引き受けてくださったホストファミリーの皆さんからの感想をご紹介します。

『自宅でできる国際交流・ホストファミリー体験記』

北村 はなえ さん

私の家族はミルテというベルギーからの女子学生を招き入れました。2週間ほどでしたが、たくさんの事を学ぶことができました。私は一昨年の夏にベルギー派遣の学生代表団に参加しました。現地ではホストファミリーが私を歓待してくださったので、私も同じようにもてなしをしたいと思い、ミルテが緊張しないように心がけました。自分が行った時よりも自宅に招いた時の方がたくさん会話をしたような気がします。それは少しでも滞在を楽しんでもらいたいと思う気持ちが強かったからだと思います。

ホストファミリーをして、いつも当たり前に行っている事が相手にとっては違うと感ずるということに多々気付かされました。例えば、起床時間や入浴の習慣です。日本では一般的に夜の12時までに眠り、朝の7時頃には起きています。しかし、ベルギーでは夜中2時頃に眠り朝の10時頃に起きていますと聞きました。日本でそのように暮らしている人は少ないのではないかと思います。また、私たちは毎日お風呂に入りますが、ベルギーでは毎日入らず、3日に1回程度だそうです。しかし、私は日本の習慣を体験してほしいと思い、毎日お風呂に入ってもらいました。日本の夏は暑く、たくさん汗もかくので日本なら毎日お風呂に入ると話していました。2人で温泉に行った時、「初めてこんなに暑いお湯に入った！」と言ってお風呂の文化を楽しんでいました。

私たちはカラオケにも行きました。初めて行った時にとっても喜んでくれて、派遣団の中でもカラオケの話題が盛り上がり、学生代表団のみんなで行きました。ベルギーではカラオケは無いようで、皆とても気に入ったようです。

これらの国際交流を通じて、たくさんの人と出会い、新しく知り、初めての体験をすることができました。改めて日本の文化を学んだり、自分の英語力を伸ばしながらお互いの文化を教え合うなど、普段できない体験をさせていただきました。今後は、ベルギーだけではなく、他の国々の人々や文化にも触れあっていきたいと考えています。本やインターネットで学ぶのとは違って、直接自分で見たり聞いたりすることで理解が一層深まることを実感しました。

事務局によると、最近、ホストファミリーになってくださる家族が少ないそうです。外国語が話せなくても挑戦してみてください。私の両親も全く話せなくて、私が不在の時は、笑顔とジェスチャーとスマートフォンのアプリでコミュニケーションをしていました。最初は言葉を聞き取るのが難しいと思いますが、2日間位で耳が慣れてくると両親が言っていました。自ら英語で話すように頑張っていました。ミルテもこんな両親と毎日楽しく話してくれていました。

ハッセルト市学生代表団がお越しの際は、皆さんも「自宅でできる国際交流」、ホストファミリー事業にぜひご参加ください。



ユニバーサル・スタジオ・ジャパンにて
(筆者・前列右から3番目)